

2 野 菜

項 目	作 業 内 容																																																
<p>(1) 果菜類の定植</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○果菜類の定植 ○いちごの栽培管理 ○さといもの栽培管理 <p>5月は、露地（雨よけ）果菜類の定植時期となる。この時期の天気は、数日の周期で変わることが多いので、苗の生育や気象情報に留意し、適期に定植できるよう早めのは場準備を行う。また、定植にあたっては晩霜に注意する。</p> <p>ア ほ場準備</p> <p>作付けするほ場は、耕土が深く、保水性、排水性の良い場所を選び、あらかじめ完熟堆肥等を施用して深く耕しておく。</p> <p>また、表1を参考に土壌改良資材を施用し、土壌pHを適正範囲に整えておく。</p> <p>各作目の畝幅及び株間、基肥の施用量は、表2を目安とする。マルチは、定植前までに条件のよい日を選んで張っておく。</p> <p>表1 野菜の種類と好適pH</p> <table border="1" data-bbox="976 864 1406 1066"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>好適pH</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きゅうり</td> <td>5.0～7.0</td> </tr> <tr> <td>なす</td> <td>5.5～6.0</td> </tr> <tr> <td>トマト</td> <td>6.2～7.0</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>5.5～6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>表2 果菜類の種類と栽植密度、基肥の目安</p> <table border="1" data-bbox="467 1292 1402 1509"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">畝幅 (m)</th> <th rowspan="2">株間 (cm)</th> <th rowspan="2">条</th> <th colspan="3">基肥 (kg/10a) ※</th> </tr> <tr> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>カリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1.5</td> <td>70～80</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>なす</td> <td>2.0</td> <td>60～70</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>トマト (雨よけ)</td> <td>1.8</td> <td>50～60</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>1.4</td> <td>50～60</td> <td>1</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※施肥量は愛媛県施肥基準による（成分量）</p> <p>イ 定植</p> <p>天気の良い暖かい日を選んで定植する。定植適期の苗は、きゅうりでは本葉3枚程度、なす、トマト、ピーマンでは1番花(房)の開花始めを目安とする。植え付けは根鉢を崩さないよう丁寧に行い、深植えにならないようにする。定植後は速やかに仮支柱を立て、十分にかん水して活着を促す。</p>	種類	好適pH	きゅうり	5.0～7.0	なす	5.5～6.0	トマト	6.2～7.0	ピーマン	5.5～6.0	種類	畝幅 (m)	株間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) ※			窒素	リン酸	カリ	きゅうり	1.5	70～80	1	20	30	18	なす	2.0	60～70	1	20	20	18	トマト (雨よけ)	1.8	50～60	2	15	20	15	ピーマン	1.4	50～60	1	18	15	14
種類	好適pH																																																
きゅうり	5.0～7.0																																																
なす	5.5～6.0																																																
トマト	6.2～7.0																																																
ピーマン	5.5～6.0																																																
種類	畝幅 (m)	株間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) ※																																													
				窒素	リン酸	カリ																																											
きゅうり	1.5	70～80	1	20	30	18																																											
なす	2.0	60～70	1	20	20	18																																											
トマト (雨よけ)	1.8	50～60	2	15	20	15																																											
ピーマン	1.4	50～60	1	18	15	14																																											
<p>(2) いちごの栽培管理</p>	<p>ア 高設栽培の給液管理</p> <p>いちごの高設栽培では、おおむね5月末頃まで収穫が行われるが、気温や日射量の上昇に伴って吸水量が増加するため、定期的</p>																																																

項 目	作 業 内 容
<p>(3) さといもの栽培管理</p>	<p>に排液量を確認し、培地が乾燥しないよう給液回数や時間を調整する。培地量の少ない高設栽培システムでは、特に注意する。</p> <p>イ 品質低下の防止</p> <p>(ア) 高温期には果実品質が低下しやすいので、採り遅れのないよう注意し、過熟果、黒ずみ果、ズルケ果を混入しないようにする。</p> <p>(イ) 果実温度の低い早朝に収穫するとともに、予冷を徹底し、パック詰めを行う。</p> <p>(ウ) 摘果の徹底により、終盤まで大玉生産に努める。</p> <p>(エ) アザミウマ類の被害果を防止するため、花をよく観察して薬剤防除を行うとともに、ハウス内外の除草に努める。</p> <p>ウ 親株床の管理</p> <p>良く揃った子苗を多く確保するには、4月下旬までに発生したランナーを除去し、5月以降に発生するランナーから子苗を採苗する。土壌が乾燥したり、親株が肥料切れすると、ランナーの発生が悪くなるので、適宜、かん水や追肥を行う。親株の古葉や枯葉、病葉、花房等は随時除去するとともに、炭疽病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の防除に努める。</p> <p>エ 採苗（鉢受け）</p> <p>太く充実したランナーを選んで、本葉 1～2 枚の子苗をポットに受け、クリップ等で固定する。鉢受け後、培土が乾燥していると活着が遅れるので、かん水チューブ等により随時かん水を行う。ランナーの切り離しは、最終鉢受けの 10 日～2 週間後、ポットの底穴に根が達した頃を目安とする。</p>
	<p>ア 芽出し</p> <p>マルチ被覆後 30～40 日前後で出芽が始まる。マルチ被覆前定植の場合は、芽がマルチにあたると焼けるので、毎朝ほ場を確認し、穴をあけ芽を出す。</p> <p>イ 芽かき</p> <p>1 つの種芋から 2 本以上発芽しているものは、早めに整理し 1 株 1 本にする。</p> <p>ウ 土入れ</p> <p>子芋着生時期に、地温の上昇防止と孫イモの芽つぶれを防ぐため、一輪管理機等により土入れを行う。土入れは 5 月下旬から葉が付き合うまでの間に行う。子芋着生時期は通常 5 月下旬頃にな</p>

項 目	作 業 内 容
	<p>るが、気候・定植時期により生育が遅れている場合は、生育状況にあわせて土入れを遅らせる。</p> <p>エ 除 草</p> <p>土入れ、除草剤により、除草作業を行う。除草剤を散布する時は、さといもの葉にかからないように噴口カバーをつけるなどドリフトに注意して散布する。</p>



写真1 土入れの状況

(作成 農林水産研究所)